

PRAEVIDENTIA DAILY (2月23日)

昨日までの世界：EG 合意は案外イージーに合意

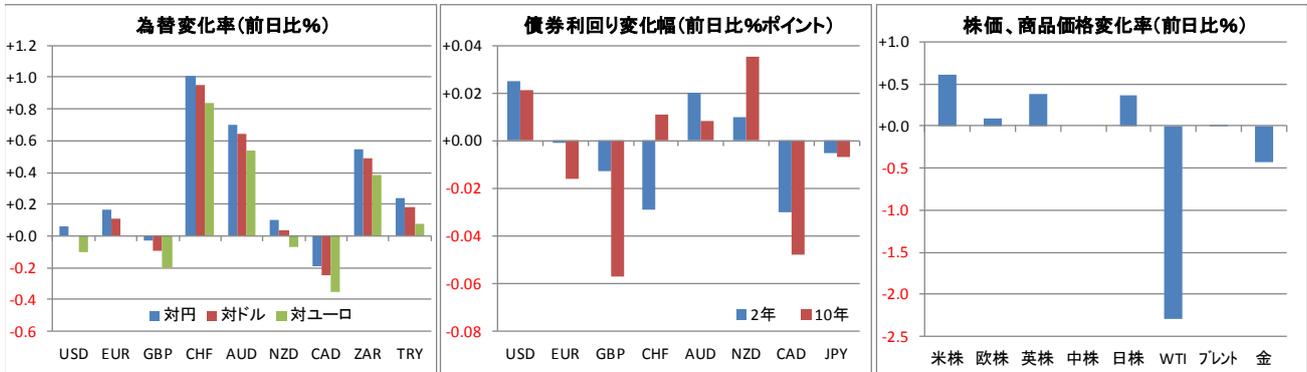
先週金曜は、ユーロ圏財務相会合に向けてはギリシャ支援に関する合意に達するのが困難ではないかという懸念からか、ユーロ/ドルが 1.13 ドル台半ばから 1.1278 ドルへ下落した。もっとも、東京時間真夜中過ぎに、ギリシャ支援を 4 か月間延長することで暫定合意との報道が流れると急反発し、一時 1.1428 ドルへ上昇した。延長の条件としてギリシャは週明け 2 月 23 日までに、支援期間中に実施する政策措置の一覧を提出せねばならず、トロイカがこれを承認すれば、ユーロ圏各国議会で必要な財政措置に関する承認に進むことになる。

ドル/円も同様に、ユーロ圏財務相会合への懸念から、米中長期債利回りの低下と共に 118 円台後半から一時 118.27 円へ下落した。もっとも、暫定合意報道を受けて米中長期債利回りが急反発したことから、ドル/円は 119 円台を回復して引けた。米株価もギリシャ支援延長に関する暫定合意を受けて上昇しており、ドル/円の下支え要因となった。ユーロ/ドルとドル/円の動きを受けて、ユーロ/円は非常に大きな上下動となり、135 円丁度近辺から 133.51 円へ下落した後、135.89 円へ急反発した。

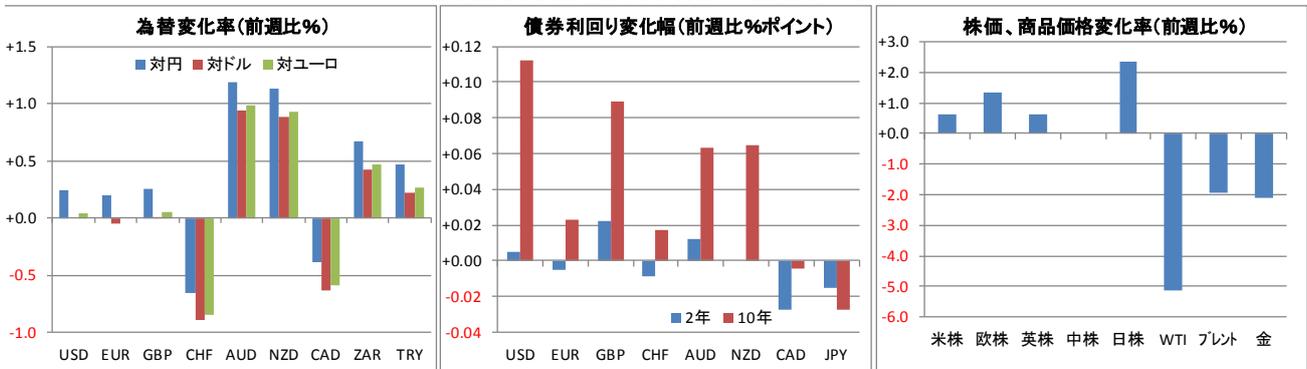
この間、デンマーククローナが対ユーロで大きく下落、7.444 クローナから 7.4649 クローナへ 0.27%程度下落した。政府経済顧問がクローナの対ユーロペッグ維持のために最終的に資本規制の導入もあり得ると発言したことを受けたものだ。これを受けてか、このところ下落基調にあったスイスフランは対ユーロで大きく上昇した。

カナダドルは、原油安に加えて、カナダ 1 月小売売上高（除く自動車）が前月比-2.3%と市場予想を大きく下回ったこともあって下落した。他方、豪ドルは特段の好材料はなかったが、前日の下落後の反発とみられ、対米ドルで強含み推移となった。

主要通貨、債券利回り、株価の前営業日比変化



主要通貨、債券利回り、株価の前週末比変化



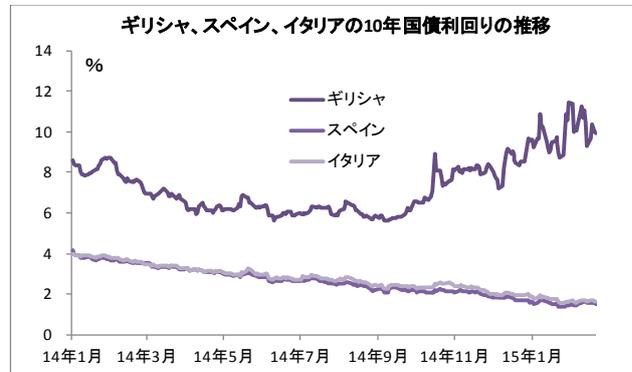
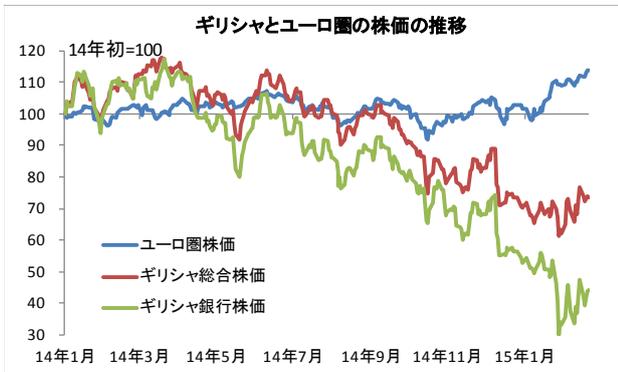
きょうの高慢な偏見：ギリシャはどう財政再建するのか？

きょうの注目通貨：USD/JPY ↑、EUR ↑

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
日銀議事要旨（1月21日開催分）	8：50			
ドイツ2月 Ifo 景況感指数	18：00	106.7	107.7	
ギリシャ、財政改革1次リスト提出				トロイカが内容検討
米1月中古住宅販売件数	0：00	504万件	497万件	

（出所）トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

本日の東京時間は、中国市場が旧正月で休場が続く中、先週金曜のギリシャ支援延長暫定合意の余韻が続けば、ユーロ/ドルは 1.14 ドル台、ドル/円は 119 円台で底堅く推移しそうだ。但しリスクとしては、ギリシャが提出する予定の財政改革第一次リストの内容が不十分だったり、提出が遅れたりする場合には、再びユーロが反落する可能性も残っており、警戒が必要だ。なお、ユーロ圏では景況感の改善傾向が続いており、本日発表のドイツ Ifo 景況感指数も改善が予想されるが、既発表のドイツ ZEW 期待指数の改善（予想は若干下回ったが）もあって目新しい材料ではなく、目先の ECB 金融政策へのインプリケーションも薄いことから、市場の注目度は低そうだ。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。
 当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。
 当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
 金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641